

2025年 夏号

みどりのまど



フリモライフラリーはむら
(はむらしとしょかん)

☎042-554-2280

ていがくねん む
低学年向け

ひみつのとっくん



工藤 純子 作 田中 六大 絵

金の星社
913/ク

ぼくはさかあがりがにがてだ。ひとりでさかあがりのれんしゅうをしていたら、へんなおとがきこえてきた。クラスのにんきもののぐっちゃんが、にがてなけんばんハーモニカのれんしゅうをしていたんだ。バトンがにがてなゆいちゃんもいっしょに、ひみつのとっくんがはじまった！

ななちゃんのたからもの



小手鞠 るい 作 すずき みほ 絵

岩崎書店
913/コ

ほん だい 本が大すきなきくのちゃんは、本のほかには友だちなんていなくてもへいきだと思^{おも}っていた。あるとき、アメリカにすむおばあちゃんのななちゃんに、かそくで会^あいに行^いった。ななちゃんがつれていってくれた森^{もり}で会^あったのは…。そして、ななちゃんがくれた「たからもの」とは？

ふしぎなつうがくろ



花里 真希 さく 石井 聖岳 え

講談社
913/ハ

ひろとは、とうこうはんのしゅうごうばしょに、ひとりであるいていきます。たいそうふくのふくろをぶんぶんとふりまわしていると、竹林^{たけばやし}のなか^{なか}にとんでいってしまいました。ひろとが、竹の子^こにひっかかっていたふくろをとろうとすると…。

リリの思い出せないものがたり



たかどの ほうこ 作 高橋 和枝 絵

ポプラ社
913/タ

リリはちい^{ちい}さいころおばあちゃん^{にわ}の庭で、ふしぎでわくわくするものをみた^{かん}〈感じ〉をおぼえています。2年生の夏、おばあちゃんのお友だちのフサ子^{なつ}さんが書^かいた『水玉^{みずたま}ハンカチのものがたり』を聞^きくうちに、リリはそれが自分^{じぶん}の思い出^{おも}とつな^でがっていることに気づ^ききます。

ちゅうがくねん む
中学年向け

や・い・ろ・の



いまた あきこ 文 南波 タケ 絵

文研出版
913/イ

と かい しやうがっこう てんこう だい き ことば とも
都会の小学校へ転校した大樹は、言葉のなまりをからかわれ、友だちが
できずにいた。あめ ひ たい だけ なか たても の み かんばん
雨の日、大樹は竹やぶの中に建物を見つける。看板には
『や・い・ろ・の』と書かれていた。ある日、クラスメイトの優菜が、
その建物の中に入っていくのを見てしまって…。

ドロップイン！



あさだ りん 作 酒井 以 絵

金の星社
913/ア

あおい 葵 が、パパとの思い出のスケートボードでひさしぶりにすべっていると、
クラスメイトの りょう とそのお兄さんに声をかけられた。スケートパークが
と 取りこわされるまえ ひら たいかい
前に開く大会に、出てほしいという。涼と勝負するために
しゅつじよう 出 場 すると決めた葵。ついに、大会の日がやってきた！

角が曲がったみつき二号



麦野 圭 作 高山 ケンタ 絵

文研出版
913/ム

みつきはパパといっしょにカブトムシの幼虫をたくさん育てて、保育園
に寄付している。今年は二匹をのこして、おねえちゃんといっぴき せ わ
と一匹ずつお世話をすることになった。ところが、みつきの育てているカブトムシのさなぎ
は づの ま 角が曲がっていた。ちゃんとカブトムシになれるかな？

100年見つめてきました



吉野 万理子 作 川上 和生 絵

講談社
913/ヨ

わたしは奈良県にある遊園地の飛行塔。今から百 年 近く前に生まれました。
たか 高さ 642 メートルの生駒山の上に立つ、飛行機が回る乗りものです。
こ どもたちと遊び、鳥さんや猫さん、航空灯台さんと 話 をして、楽しく
あそ すご していましたが、だんだん子どもたちが来なくなりました。戦争が
はじまったのです。

こうがくねん む
高学年向け

ひと箱本屋とひみつの友だち



赤羽 じゅんこ 作 はらぐち あつこ 絵

さ・え・ら書房
913/ア

ほんをよむのがだいすきな朱莉は、ある日ひと箱本屋カフェで、しょうがくせいのおんなの子が書いた本を買いました。一気に読み終えた朱莉は、この本を書いた理々亜と友だちになりたいと思います。感想を書いた手紙を送ると、理々亜からも返事が来て、ふたりははじめて会うことになったのですが…。

ダンス★フレンド



カミラ・チェスター 作 櫛田 理絵 訳
早川 世詩男 絵

小峰書店
933/チ

レオはダンスが大好きな男の子。場面かんもく症のため、家族としかしゃべることができない。引っ越してきたリカは、そんなレオにもたくさん話しかけてくれる。レオは勇気を出して、人前で話せない理由を手紙で書いてみた。だけど、あれっ？いつまでもリカが手紙を読んでもくれない。

ブルーラインから、はるか



林 けんじろう 作 坂内 拓 絵

講談社
913/ハ

なつやすみの図書館で、6年生のコタはいきなり学校も学年もちがう4年生の風馬に頼みごとを持ちかけられる。全長70kmの『しまなみ海道』のブルーラインコースをいっしょに自転車で往復してほしい、というむづかしくおもえる内容だった。2人のアツい一日が始まった。

わたしに続く道



山本 悦子 作 佐藤 真紀子 絵

金の星社
913/ヤ

リイマは日本生まれ日本育ち、体育が好きで足が早い小学5年生。でも、五十メートル走で1位になった日、男子に「黒人だから速いだけ」と言われてしまう。他の子が「人種差別反対！」とかばってくれたけど、なんか違う気が…。そんな中、離婚した父の故郷であるケニアに行く機会が訪れた。